

株式会社ジェイコムイースト 世田谷局 調布局

2013 年度 放送番組審議会 議事録

2013 年度の放送番組審議会は 2014 年 3 月 31 日(月)にハイアットリージェンシー東京「明星」にて開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

ご出席

小澤	弘美様	城戸	雅幸様	吉良	雅彦様
齊藤	亀三様	張堂	完俊様	吉田	恵美様

事業者側から現況報告及び J:COM チャンネルの報告があった。

【質疑応答・意見交換】

(台風接近時のテロップ対応)

委員 夜、大型台風接近の際、画面上に台風情報をテロップで放送することは可能か。

事業者 防災情報は、24 時間 365 日対応できる体制が整った。行政から提供される避難指示、避難勧告等の規模に応じて情報を発信していくことをご理解いただきたい。

防災協定締結に伴うマニュアルを昨年、整備したので、追って各行政にはご説明に伺う予定である。

(防災情報の入手先)

委員 防災協定を締結しても、実際の緊急時には、市の職員(上層部含め)がほとんど登庁できないケースが起る。災害時は、消防団、消防署から各 1 名を役所に派遣し、リアルタイムで情報共有し、必要な情報を発信することになる。ゲリラ豪雨の場合、30 分、1 時間で河川があふれる事態に至る。

役所を介在させるのではなく、消防署あるいは消防団から直接、情報を入手する仕組みにして、テロップを流すことでないと、特に夜は機能しない。何ミリ以上の降雨の場合、すぐにテロップを流すことにしないと、機能しない。

(調布局の防災体制)

委員 震災後、調布市でも防災体制を立て直し、広報も 24 時間体制を取っている。気象庁からの注意報の発報により、すぐに駆けつける体制を取っている。

また、「調布エフエム」に退避情報を発信しており、これに J:COM チャンネルが入ることで更に強化できる。

(区の災害情報の集約体制)

委員 世田谷区では、注意報段階から災害対策担当職員は、役所待機となり、警報段階では、広報担当も待機となる。

災害対策の情報は、広報課に一元化され、発信する仕組みになっている。その情報を入手する先は、消防、一般区民、5 支庁からとなる。体制はあるが、その情報の集約ができるかが課題である。マニュアルも含めて見直したい。

情報提供媒体は、地域 FM、ツイッター、HP となる。区の HP は、警報段階で、自動的に災害情報がトップページに掲出する仕組みになっている。川の水位や交通情報なども含めて反映される。

事業者 防災情報は、自治体向けのみのシステムではないと認識している。同じスキームでライフライン関係機関全てとの展開が必要である。

災害情報を発信する「公共情報コモンズ」に東京都が加入する予定である。

我々、メディアも「公共情報コモンズ」から、全自治体の情報が入手でき、有効に使えることになる。また、市民、区民からの直接情報の吸い上げが課題である。クラウドシステムなどのシステム構築も検討したい。

(防災情報でチャンネルの信頼を)

委員 災害時に、NHK から J:COM にチャンネルを変えてもらうのは、今がチャンスではないか。地域密着情報で、視聴者からの信頼が得るのは、今である。

また、このエリア(世田谷、狛江、調布)は、多摩川もあるが、全て野川沿いである。“野川”という、ローカルな思いを通じて、つないでいくような番組もあってもいい。(桜やマラソンなど)

「オレオレ詐欺」情報もきめ細かに、どこの地域が狙われているかなどの、情報も発信できないか。

(双方向による情報発信)

委員 「ウェザーニュース」のように、J:COM チャンネルでも市民との双方向で、リアルタイムな情報発信を防犯、防災でも出来ないか。警察からのエリアメールも参考にして、データ放送で防災情報なども発信できないか。

(加入 PR に「J:COM チャンネル」、テレビ操作はシンプルに)

委員 J:COMに加入した当時、地元に着したJ:COMチャンネルがあることを薦められた覚えがない。もっと、地元情報、防災情報を放送しているチャンネルであることを、アピールしてもらえれば、主婦、年配者、若者層にも加入につながるのでは。

これから益々、高齢者が増えるが、テレビのリモコン操作は、複雑とせず、分かり易く視たい番組にピンポイントで合わせられるようにしたら、集客も見込まれるのではないか。

(死亡記事など身近な情報)

委員 地方新聞のように、一般住民の死亡記事、火事や交通事故の発生情報などもテレビで発信できないか。

(災害、防災に強いコミュニティチャンネル)

委員 災害、防犯情報は、このチャンネルを視たら、地域のことが分かるということを前面に打ち出したほうがいい。

(FM 局の番組編成事例、聴覚障害者対策)

委員 普段から、そのメディアを視て(聴いて)もらえないと、緊急時にも視聴してもらえない。FM 局では、地元の人取材する、関わるというコンセプトで行っている。番組編成は、FMをよく聴く世代をターゲットにした番組制作(60年代のポップスなど)に主軸におきながら、一方で全国区の番組作りを行っている。

聴覚障害者向けの視聴対策として、テロップもしくは手話があるが、テロップがより有効であると思われる。ご検討いただきたい。

(J:COM による防犯対策)

事業者 都内では、「オレオレ詐欺(お母さん助けて詐欺)」が多発している。杉並区では、区より警視庁を紹介いただき、J:COM チャンネルで啓蒙インフォマール放送を準備している。また、防犯対策として、J:COM では、警視庁提供の録音機器(ハードディスク内蔵)を電話に設置することも進めている。犯人から電話がかかってきた際、「録音します」というアナウンスが流れる仕組みである。

4月より情報番組『ジモトピ』の毎月第1週目は、防犯・防災コーナーをレギュラー化する。警察署の方にも出演、コメントをしていただく予定である。

(防犯に対する啓蒙)

委員 この地域は、犯罪件数が多いという実態を住民にも知らせたほうがいい。警察は、毎月、地区ごとの犯罪データを集計しており、自治会などにも配布しているようだが、J:COMでも上手く活用したらいい。

(タウン誌とのタイアップ)

委員 J:COMチャンネルとタウン誌とのタイアップは可能か。区の広報からも情報提供している。

事業者 紙媒体はじめ各メディアとのタイアップは、各エリアでもっと積極的に実施していきたい。地元FM局(世田谷、調布)との連携は、不十分である。番組企画や広告営業面でも取り組みたい。

(引越し者向けの地域生活情報発信)

委員 情報が溢れている中で、J:COMチャンネルには、学生など外から引越してきた人たち向けに、生活に必要な情報を発信してほしい。例えば役所、出張所、警察署、銀行、生鮮食品店、ゴミ出しなどの情報提供があるといい。

(産官学連携)

委員 大学と地域との連携するケースは。

(大学と地域の連携事例)

委員 世田谷での大学連携では、地域によって、災害時の防災訓練、生涯学習や大学でお子さんを預かっていただくケースもある。但し、地域と大学の連携事例は、まだ少ない状況。

(『ジモトピ』のリニューアル)

事業者 4月からの『ジモトピ』は、バラエティではなく、地域生活情報に徹する。事後のトピックスではなく、未来形となる地域や生活に密着した情報をお送りしたい。

(外部との定点カメラ連携)

事業者 行政が保有している定点カメラとチャンネルと連携することも検討いただきたい。朝の交通状況を定点カメラからライブ映像で放送し、緊急時には、切り替える体制が出来ればいい。地元河川(多摩川、野川)も設置対象である。

(緊急時の関係省庁への協力要請)

委員 多摩川は、国交省の河川事務所が複数個所で24時間、定点観測を行っており、緊急時にその定点映像を使わせてもらうことは出来ないか。

(学校給食・献立の番組化)

事業者 教育分野では、学校給食の献立を昼番組で発信(動画または静止画)したいと

考えているが、ご意見をいただきたい。

(給食センターの実態)

委員 給食に関しては、シビアな状況。学校によるが、子供のアレルギーが多く、給食センターには、こうした個人情報も管理されており、父兄も立ち入れない。

各学校で対応ということであれば、校長次第ではないか。

(調布市の見解)

委員 調布市では、対応が可能であると思う。学校の献立は、学校HPで公開している。当日の料理は、職員室前に掲出している。但し、調理室の撮影は不可。また、ある小学校では、年3回ほど「世界の給食」として、その国の大使館職員も一緒に給食を食べる催しがある。

(世田谷区の見解)

委員 世田谷区は、統一的に出来るか、学校ごとの対応となるか確認が必要。保護者向けに、今日の献立を書面で配布しているところもある。

(狛江市の見解)

委員 狛江市は、来年9月、給食センターを立ち上げる予定。狛江では、地場の食材を使ったり、コロッケやだし汁、鶏がらなども手作りで料理しており、調理人の工夫の様子も取材していただきたい。

(選挙の当確報道)

事業者 地方のCATV局では、投票所で出口調査を行い、当確を打つことを実施している。J:COMでも首長の他に区・市議会議員選挙でもチャレンジしたい。

世田谷区の場合は、隣接のCATV局・イツコムとの連携が必要となる。

(当確報道の問題)

委員 当確情報は、首長選挙は可能だが、区・市議会議員は無理であろう。

上位当選者と落選者は、ある程度、分かるだろうが、当落線上の候補者の当確は難しいと思われる。出口調査の結果とは、逆になるケースもある。

(市の記者会見の番組発信、FC東京応援番組の動画配信化)

委員 調布市の記者会見の様様を毎回、『いまだこイレブン』でも紹介していただきたい。

FC東京の応援番組を放送終了後、1～3週間程度、市に動画配信向けに提供いただくことは可能か。動画内にJ:COMの加入PRも挿入した形で検討願いたい。

以上